

President's Message

社長メッセージ

“お客さまに近く、現場を大切にし、
「もっといいクルマ」を提供してまいります。”

取締役社長 豊田 章男

はじめに、2009年6月23日に開催された定時株主総会後の取締役会において、当社の取締役社長に就任しましたことをご報告いたします。

日ごろは、当社の活動に多大なるご理解とご支援をいただいておりますことに、まずもって感謝とお礼を申し上げます。

現在、世界経済が深刻さを増す中、自動車メーカーだけではなく、部品会社はじめ自動車産業に関わるすべての企業が、大きな困難に直面しています。当社におきましても、自動車の生産・販売が急下降し、当期(2009年3月期)業績は大きな影響を受けました。

このような情勢の中、トヨタの舵取りを担います新しい経営陣は、まさに「嵐の中の船出」であり、株主・投資家の皆さまから託された責任の重さに身の引き締まる思いです。

トヨタの創業以来の精神に、「いいクルマをつくり、社会に貢献すべし」というものがあります。その根底にあるのが「お客様第一」「現地現物」であり、「良品廉価」なモノづくりです。こうした時だからこそ、私たちは今一度、創業から70年以上にわたり引き継がれてきた、トヨタの良きDNAを胸に刻み、この難局に立ち向かってまいりたいと考えております。

そのためには、「もっといいクルマをつくろうよ」という、「商品を軸とした経営」を徹底してまいります。これは、自動車会社としての本質を見つめ直し、追求することで、トヨタの「お客様第一」「現地現物」という経営姿勢を明確な形に表していくことを意味しています。具体的には、技術開発から製造、販売、サービスに至るまで、つねにお客さま目線で考え、お客さまが「欲しい」と思うクルマを、「買いたい」と思える価格で提供するために、さらなる商品開発や原価低減に取り組んでまいります。また、現場を重視するということは、お客さまや社会のニーズに的確にお応えする、さらには先取りしていく原動力となります。

また、「商品を軸とした経営」を徹底するためには、「マーケットに軸足を置いた経営」が必要となります。「お客様第一」に根ざし、それぞれの国や地域において、「トヨタはどうありたいのか、何に注力すべきか、どのような形で社会に貢献していくのか」を見定め、それを「地域ビジョン」として明確化してまいります。今回の経営体制では地域担当制を敷き、現場を熟知した経営陣が変化を機敏に捉え、迅速に対応できるよう各副社長がそれぞれの地域を統括する体制といたしました。

私は、クルマが単なる移動手段のための道具ではなく、これからの時代も社会に必要とされ、人びとをワクワクさせる乗り物であってほしいと思います。そのひとつの答えとなる環境対応技術の開発にはこれまで以上に注力するとともに、クルマを運転すること自体がもっと人びとの喜びや楽しさ、感動につながる技術のブレークスルーを目指してまいります。また、クルマを「持つ喜び」「走らせる喜び」「語り合う喜び」など、人生を送るうえで、いかにクルマが「大切なパートナーになれるか」ということを、お客さまをはじめ、あらゆるステークホルダーの皆さまにお伝えしていきたいと思っております。

トヨタは、どのような経営環境であれ、将来の成長の糧となる技術開発や、生産性向上の手を緩めることなく技術や技能の伝承・進化を追求し、社員の成長とともに会社も成長することができる現場を、これまで以上に重視してまいります。そうすることにより、トヨタの競争力を高め、世界の自動車産業を牽引できる新しいトヨタの礎を築いていけるものと確信しております。

このようにトヨタは、環境の変化に大胆かつスピーディに対応し、さらなる成長に向け、果敢に変革に挑戦してまいります。そして、お客さまにとって「かけがえのない一台」をお届けし、世界中のお客さまにご満足いただけるよう全力で取り組んでまいります。

厳しい経営環境の中、お客さまやご協力いただいているパートナーの方々など、すべてのステークホルダーの皆さまへの「報恩感謝」の気持ちを忘れずに、社員一同が、お客さまや社会としっかり向かい合い、「力強いトヨタ」を再び築き上げてまいります所存です。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、これからも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2009年7月

取締役社長

豊田章男